

<概要>

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【平成28年度第4四半期】※追加

日本学術会議主催学術フォーラム

- ・経費負担を要するものは、原則として年間10回程度
- ・経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
- ・土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

【平成28年度】今回追加1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案7 [p. 3-4]	「安全保障と学術の関係：日本学術会議の立場」	平成29年 2月4日(土)	日本学術 会議講堂	要	要

※平成28年度土日祝日に講堂を利用する公開シンポジウム等（学術フォーラム含む）は全29件を承認済み。

<参考>

平成28年度承認済み学術フォーラム：全5件（うち土日開催4件）

	テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	「原子力発電所事故後の廃炉への取組と汚染水対策」	平成28年 4月23日(土)	日本学術会議 講堂	不要	要
2	「若手生命科学研究者のキャリアパスについて考える：卓越研究員制度の現状と未来、そしてさらなる可能性」	平成28年 9月23日(月)	東京大学本郷 キャンパス小 柴ホール	要	要
3	「乳児を科学的に観る：発達保育実践政策学の展開」	平成28年 11月6日(日)	日本学術会議 講堂	要	要
4	「科学者は災害軽減と持続的社会の形成に役立っているか？」	平成28年 11月13日 (日)	日本学術会議 講堂	不要	要
5	「持続可能な社会の実現に向けた草の根活動の振興－IYGU(国際地球理解年)の試み」	平成28年 12月3日(土)	日本学術会議 講堂	要	要

<各提案>

日本学術会議主催学術フォーラム「安全保障と学術の関係：日本学術会議の立場」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：平成 29 年 2 月 4 日（土）13：00～17：00
3. 場 所：日本学術会議講堂
4. 委員会の開催：開催予定
5. 開催趣旨：

日本学術会議は 1950 年、1967 年に「戦争を目的とする科学研究」を行わないとの声明を發した。近年、軍事と学術が各方面で接近を見せる中、民生的な研究と軍事的な研究との関係をどうとらえるかや、軍事研究が学術の公開性・透明性に及ぼす影響などをめぐって審議すべく、「安全保障と学術に関する検討委員会」が設置された。同委員会の中間報告を受けて審議の状況等を紹介するとともに、内外から意見を聴取するため、学術フォーラムを開催する。
6. 次 第：

総合司会 大政 謙次（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、愛媛大学大学院農学研究科客員教授、高知工科大学客員教授）

13：00-13：05 開会挨拶

挨拶 大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

<第Ⅰパート：委員会中間とりまとめの状況報告>

13：05-13：35 委員会中間とりまとめの状況報告

杉田 敦（日本学術会議第一部会員、法政大学法学部教授）

<第Ⅱパート：日本学術会議の内外の意見>

進行 小松 利光（日本学術会議第三部会員、九州大学名誉教授）

13：35-13：50 （演題調整中）

兵藤 友博（日本学術会議第一部会員、立命館大学経営学部教授）

13：50-14：05 （演題調整中）

須藤 靖（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授）

14：05-14：20 （演題調整中）

佐野 正博（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）

14：20-14：35 （演題調整中）

福島 雅典（日本学術会議連携会員、財団法人先端医療振興財団臨床研究情報センター長（兼）研究事業統括）

14：35-14：50 （演題調整中）

西山 淳一（公益財団法人未来工学研究所 政策調査分析センター研究参与）
14：50-15：05 （演題調整中）
根本 清樹（朝日新聞社論説主幹）

15：05-15：20 （ 休憩 ）

<第Ⅲパート：総合討論>

進行 杉田 敦（日本学術会議第一部会員、法政大学法学部教授）

15：20-16：55 総合討論

（学術フォーラム参加者と安全保障と学術に関する検討委員会委員による質疑応答）

16：55-17：00 閉会挨拶

挨拶 花木 啓祐（日本学術会議副会長・第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

17：00 閉会

（下線の登壇者は、主催委員会委員）

<概要>

**5. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【平成 29 年度第一四半期】**

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- ・経費負担を要するものは、原則として年間 10 回程度
- ・経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計 3 件まで
- ・土日祝日開催のものは、四半期ごとに 2 件まで

【平成 29 年度第 1 四半期】全 1 件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案 8 [p. 5-6]	「危機に瀕する学術情報の 現状とその将来」(仮題)	平成 29 年 5 月 18 日(木)	日本学術 会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- ・各年度 32 回まで、及び四半期ごとにおおむね 8 回
(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

【平成 29 年度第 1 四半期】全 3 件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	主催委員会等名
1	提案 9 [p. 7-8]	「睡眠と生物時計:心身の健康を 守るからだのリズム」	平成 29 年 5 月 28 日(日)	基礎生物学委員会・基礎 医学委員会・臨床医学委 員会合同生物リズム分科 会
2	提案 10 [p. 9-10]	「材料工学から見たものづくり 人材育成の課題と展望」	平成 29 年 4 月 22 日(土)	材料工学委員会材料工学 将来展開分科会
3	提案 11 [p. 11-12]	公開ワークショップ「まちおこし の現場から明日を考える -若手・ 中堅研究者の提言-	平成 29 年 5 月 13 日(土)	土木工学・建築学委員会 地方創生のための国土・ まちづくり分科会

注： 職員の人的支援はなし

日本学術会議主催学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来」（仮題）の開催について

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：平成 29 年 5 月 18 日（木）13：00～17：40

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

平成 22 年（2010 年）8 月に提言「学術誌問題の解決に向けて－「包括的学術誌コンソーシアム」の創設－」が公表され、学術活動を支える柱である学術誌へのアクセスと学術誌による発信に関する課題および方向性が整理された。また提言にあるコンソーシアムも設立された。しかし、学術情報を取り巻く情勢は電子ジャーナル価格の上昇や国立大学運営費交付金の漸減に伴って変化してきており、アクセスの維持も容易ではなくなってきている。今後の学術情報をどのように取扱い、どのようにオープンアクセスやオープンサイエンスへとつなげていくのか、学術情報にまつわる現状と明らかにされた課題および将来を考えるため学術フォーラムを開催する。

5. 次 第：

総合司会：大野 英男（日本学術会議第三部会員、東北大学電気通信研究所長・教授）

13:00～13:05 挨拶

大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

13:05～13:20 趣旨説明

大野 英男（日本学術会議第三部会員、東北大学電気通信研究所長・教授）

13:20～13:45 講演「学術情報とは何か」（仮）

久留島 典子（日本学術会議第一部会員、東京大学史料編纂所教授）

13:45～14:10 講演「学術情報の現状－コンソーシアムの立場から－」（仮）

安達 淳（日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構国立情報学研究所教授）

14:10～14:35 講演「学術情報の現状－研究者を取り巻く状況－」（仮）

松尾 由賀利（日本学術会議第三部会員、法政大学理工学部教授）

14:35～15:00 講演「学術情報の現状－大学の立場から－」

植木 俊哉（東北大学理事）

15:00～15:15 休憩

15:15～15:40 講演「出版社の立場から」（仮）

Anders Karlsson（エルゼビア グローバル・アカデミック・リレーションズ副社長）

15:40～16:05 講演「学術情報の現状と未来－文科省の立場から－」

榎本 剛（文部科学省研究振興局参事官（情報担当））

16:05～16:30 講演「これからの学術情報－オープンサイエンスを巡って－」

土井 美和子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人情報通信研究機構監事）

16:30～16:45 休憩

16:45～17:30 総合討論「学術情報のエコシステムーそのあるべき姿とはー」

総合討論司会：小松 久男（日本学術会議第一部会員、東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授）

パネリスト：講演者全員

17:30～17:40 まとめ

長野 哲雄（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、東京大学創薬機構客員教授）

17:40 閉会

（下線の講演者は幹事会委員）

公開シンポジウム「睡眠と生物時計：心身の健康を守るからだのリズム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同生物リズム分科会
2. 共 催：日本時間生物学会、日本睡眠学会
3. 後 援：日本医歯薬アカデミー（予定）
4. 日 時：平成29年5月28日（日）13:30～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

バクテリアからヒトまで、地上のほぼすべての生物はその機能に24時間のリズム「概日リズム」を示す。これらのリズムは内因性リズム発振機構である「生物時計」により駆動され、地球の自転に伴う24時間の明暗サイクルに同調したリズムを示すと共に、公転に伴う季節変動に応じ特徴的な変化を示す。リズム発振のメカニズムは分子レベルで明らかにされつつあり、約24時間の周期性の形成や、光刺激への同調は、バクテリア、菌類、植物、動物を通じ、驚くほど類似している。ヒトにおいても、睡眠覚醒をはじめ、自律神経、内分泌、免疫機能、など、あらゆる生理機能に約24時間のリズムがみられる。最近の大規模研究の結果から、生体リズムの障害、慢性的睡眠不足や夜型生活、不規則な食事時間などが生活習慣病、うつ病をはじめとする気分障害などの誘因であることが明らかになっている。本シンポジウムでは、ヒトのリズム・睡眠と健康維持に焦点をあて、リズム発振メカニズム研究の最前線、睡眠障害や生体リズム障害によって生じる様々な健康障害とその予防について講演をいただく。講演を通じ、生体リズムや睡眠の意義を考え、生活、教育、など様々な現場に活かして頂く機会としたい。

8. 次 第：

司会 本間さと（日本学術会議二部会員、北海道大学脳科学研究教育センター招聘教授）

13:30 開会の挨拶

近藤孝男（日本学術会議第二部会員、名古屋大学院理学研究科特任教授）

13:40-14:20 「生物時計のリズム発振と睡眠」

上田泰己（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授）

14:20-15:00 「生物時計の発達とその障害：遺伝因子と環境因子」

内匠 透（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー）

15:00-15:15 休憩

15:15-15:55 「ヒトの睡眠覚醒リズムをつくる脳の時計・体の時計」

本間研一（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院医学研究院客員教授）

15:55-16:35 「眠りと目覚めを整える一身体、脳、こころの接点」
尾崎紀夫（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院医学研究科教授）

16:35-16:50 総合討論

16:50 閉会の挨拶

沼田英治（日本学術会議連携会員、京都大学大学院理学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は主催分科会委員）

公開シンポジウム「材料工学から見たものづくり人材育成の課題と展望」の開催について

1. 主 催：日本学術会議材料工学委員会材料工学将来展開分科会
 2. 共 催：一般社団法人日本鉄鋼協会、公益社団法人日本金属学会、一般社団法人セラミックス協会、一般社団法人軽金属学会、一般社団法人日本銅学会、一般社団法人資源素材学会、一般社団法人塑性加工学会、公益社団法人材料科学会、公益社団法人日本バイオマテリアル学会、公益社団法人高分子学会、一般社団法人日本MRS、全国材料系教室協議会、東京都教育委員会
 3. 後 援：一般財団法人金属系材料研究開発センター
 4. 日 時：平成29年4月22日（土）13:00～17:15
 5. 場 所：日本学術会議講堂
 6. 分科会の開催：開催予定
 7. 開催趣旨：我が国の技術力や産業競争力、経済を支える材料工学分野の人材育成は今後ますます重要であり、そのために優秀人材をこの分野にいかにつぎつぎと惹きつけるか、そのために高校—大学—産業界—国が一体となって何をすべきか検討しなければならない。産業界では、イノベーションの実現に既存の産業構造が対応できなくなりつつありこれらに伴う人材育成が大きな課題となっている。また、大学では材料工学科の数の減少、材料の拡がりに伴う教育の希薄化など、大学の材料工学分野の人材育成に伴う種々の問題が提起されている。さらに、工学、特に材料工学の重要性が伝わっていない高校教育の課題や女子学生や女性研究者、技術者の材料工学への進出が阻害されていることが喫緊の課題になっている。本シンポジウムではこれらのものづくり人材育成の課題と展望を討議する。
 8. 次 第：
 - （司会） 小関 敏彦（日本学術会議連携会員、東京大学副学長）
- 13:00 開会の挨拶
中嶋 英雄（日本学術会議第三部会員、公益財団法人若狭湾エネルギー研究センター所長）
- 13:05 大学における人材育成の課題（仮題）
 村上 雅人（芝浦工業大学学長）
- 13:45 素材開発・製造業における人材育成の課題（仮題）
 中川 幸也（株式会社 IHI 顧問、元副社長）
- 14:25 高校における材料工学の知識の普及と啓発活動
 吉田 信也（奈良女子大学全学共通教授）
- 15:00—15:15 （ 休憩 ）
- 15:15 ポジティブ・アクションの実効性（仮題）

戸部 博（日本学術会議連携会員、公益社団法人日本植物学会会長、京都大学名誉教授）

15：50 材料工学における女子学生、女性研究者・技術者の人材育成

中野 裕美（日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学教育研究基盤センター教授）

16：25 総合討論

（司会）長井 寿（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究拠点・特命研究員）

17：10 閉会の挨拶

吉田 豊信（日本学術会議第三部会員、東京大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認済み

（下線の講演者は主催分科会委員）

公開ワークショップ「まちおこしの現場から明日を考える -若手・中堅研究者の提言-」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会地方創生のための国土・まちづくり分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 29 年 5 月 13 日（土） 14：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

地域格差が広がり、人口減少が続くなかで、地方創生がわが国の重要な課題となっている。観光資源や地域資源を活かしたまちおこし、自然環境と調和したまちおこし、子育て・高齢化・健康に配慮したまちづくり、既存施設の再活用、コンパクト化による拠点づくり、都市農村交流、海外交流をはじめ、様々な取り組みが各地で行われている。

本ワークショップでは、まちおこしに取り組む若手・中堅研究者に、現場の取り組み、課題、提案を発表していただく。地方創生のためには、地方の主体的な取り組みを支援するとともに、様々な分野の交流により、鍵となるコンセプトを見出す必要がある。発表をもとに、会場の一般参加者や当分科会の委員とともに、将来の方向について議論したい。

8. 次 第：

14：00－14：10 趣旨説明・挨拶

司会：山本 佳世子（日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院情報理工学研究科准教授）

開会挨拶：小松 利光（日本学術会議第三部会員、九州大学名誉教授）

趣旨説明：米田 雅子（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学先端研究センター特任教授）

14：10－15：30 WS1「まちおこしの現場から明日を考える」
（発表各 20 分、自由討議 40 分）

コーディネータ

園田 眞理子（日本学術会議連携会員、明治大学理工学部建築学科教授）

発表 1：辺境におけるまちおこしの現場から（仮）

徳田 光弘（九州工業大学大学院工学研究院准教授）

発表 2：水・食料・エネルギーの自給循環と環境収容力（仮）

笠松 浩樹（愛媛大学農学部特任講師）

自由討議 40 分間

- パネラー 徳田光弘 (九州工業大学大学院工学研究院准教授)
パネラー 笠松浩樹 (愛媛大学農学部特任講師)
パネラー 戸所 隆 (日本学術会議連携会員、高崎経済大学地域政策学部名誉教授)
パネラー 小澤 紀美子 (日本学術会議連携会員、東京学芸大学名誉教授、東海大学大学院客員教授)

15:30-15:45 休憩

15:45-17:25 WS2「まちづくりの現場から明日を考える」
(発表各20分、自由討議40分)

コーディネータ

林 良嗣 (日本学術会議連携会員、中部大学総合工学研究所教授)

発表3: 橋と景観とまちづくり (仮)

久保田 善明 (富山大学理工学部教授)

発表4: バス復活で過疎地を活性化 (仮)

加藤 博和 (名古屋大学環境学研究科准教授)

発表5: 地域自律型の次世代型・水インフラシステム (仮)

牛島 健 (北海道立総合研究機構建築研究本部、北方建築総合研究所地域研究部居住・防災グループ主査)

自由討議 40分間

パネラー 久保田 善明 (富山大学理工学部教授)

パネラー 加藤 博和 (名古屋大学環境学研究科准教授)

パネラー 牛島 健 (北海道立総合研究機構建築研究本部、北方建築総合研究所地域研究部居住・防災グループ主査)

パネラー 嘉門 雅史 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)

パネラー 船水 尚行 (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院工学研究院教授)

17:25-17:30 閉会の言葉

浅見 泰司 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授)

*発表する若手・中堅研究者5名は分科会委員の推薦による。

9. 関係部の承認の有無: 第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

6. 4及び5以外のシンポジウム等

提案12

<各提案>

公開シンポジウム「ことばに対する能動的態度を育てる取り組みー初等中等教育における英語教育の発展のためにー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議言語・文学委員会文化の邂逅と言語分科会
 2. 共 催：(交渉中)
 3. 後 援：(交渉中)
 4. 日 時：平成29年2月5日(日) 13:30～17:00
 5. 場 所：東京大学文学部一番大教室(文京区本郷7丁目)
 6. 分科会の開催：開催予定
 7. 開催趣旨：広く、提言(「ことばに対する能動的態度を育てる取り組みー初等中等教育における英語教育の発展のためにー」平成28年11月4日公表)への理解を深めてもらうとともに、直接初等中等教育に携わる方々との意見交換の機会とする。
 8. 次 第：
(全体進行) 金山 富美(日本学術会議連携会員、島根大学法文学部教授)
- 13:30 開会の辞
松浦 純(日本学術会議第一部会員、東京大学名誉教授)
- 13:50 パネルディスカッション
- (司会) 林 徹(日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授)
- (パネリスト)
伊藤 摂子(東洋大学文学部教育学科助教)
伊藤 たかね(日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授)
円入 由美(文部科学省初等中等教育局国際教育課・外国語教育推進室)
大津 由紀雄(日本学術会議連携会員、明海大学副学長・外国語学部教授)
鳥飼 玖美子(日本学術会議連携会員、立教大学名誉教授)
- 15:50 休憩
- 16:20 来場者との質疑・討論

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の講演者は主催分科会委員)

公開シンポジウム「農林環境分野におけるジオエンジニアリング（気象工学）の推進」の
開催について

- 1 主催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、環境委員会環境科学分科会
- 2 後援：日本農業気象学会、日本農業工学会、日本気象学会、日本沙漠学会、生態工学会、日本環境学会、日本環境科学会、大気環境学会（予定）
- 3 日時：平成29年1月24日（火）13:00～17:00
- 4 場所：日本学術会議講堂
- 5 分科会の開催：開催予定

6 開催趣旨：

地球環境が温暖化に伴い悪化の一途を辿っている現状に対して、パリ協定が2016年11月4日に発効し長期目標が設定された。温室効果ガスの排出削減対策は政策課題であるが、吸収・固定は科学技術的課題であるため可及的速やかに人為的手段によって促進する必要がある。そこで、大気環境に焦点を当て強力な手段となり得るジオエンジニアリングを取り上げる。ただし、範囲が広く宇宙を操作する全球工学や海洋肥沃化技術等までも含むため、ここでは農林業、特に農林環境分野に役立つ気象工学・気候制御の範囲に止めて検討する。最初にジオエンジニアリングの全般を俯瞰し、順次温室効果ガス、特に二酸化炭素を地中に封じ込める捕集貯留技術や植物による吸収保存、電力・エネルギー方面からの技術開発や人工降雨法等を対象とする。これらの課題について、研究・行政関係者が一堂に会して論議し、今後のジオエンジニアリングのあり方を論議するとともに、研究・事業化等の方向性の確認及び進展のよりどころとしたい。

7 次第

13:00～13:05 開会挨拶
大政謙次（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授）

13:05～13:10 趣旨説明
真木太一（日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授）

講演：（座長： 早川誠而（日本学術会議連携会員、山口大学名誉教授））

13:10～13:40 「農林業と温暖化—ジオエンジニアリングの視点から—」
水谷 広（日本大学生物資源科学部教授）

13:40～14:10 「地球温暖化対策としての気候工学・ジオエンジニアリング」
杉山昌広（東京大学政策ビジョン研究センター講師）

14:10～14:40 「二酸化炭素地中貯留（CCS）の現状と課題」
松岡俊文（京都大学学際融合教育研究推進センター特任教授）

14:40～14:50 休憩

講演：(座長：鈴木義則 (日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授))

14:50～15:20 「電力・エネルギー分野と気象工学-ジオエンジニアリングへの期待として」

中村 元 (東京電力ホールディングス株式会社経営技術戦略研究所
土木・建築エンジニアリングセンター課長代理)

15:20～15:50 「ジオエンジニアリングに向けた人工降雨法」

守田 治 (福岡大学水循環・生態系再生研究所客員教授)

真木太一 (日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授)

鈴木義則 (日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授)

脇水健次 (九州大学農学研究院助教)

西山浩司 (九州大学工学研究院助教)

15:50～16:10 「乾燥地大規模植林による炭素固定」

小島紀徳 (成蹊大学理工学部教授)

16:10～16:20 休憩

16:20～16:55 総合討論 (座長：北野雅治 (日本学術会議連携会員、九州大学農学研
究院教授))

16:55～17:00 閉会挨拶

橋本 康 (日本学術会議連携会員、愛媛大学名誉教授)

8 関係部の承認の有無： 第二部承認・第三部承認

(下線の講演者は主催分科会委員)

公開シンポジウム「これからのいのちと健康と生活をまもる

1. 災害時に生き抜くための力を養う」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本学術会議、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会
4. 日 時：平成29年3月11日（土）13：00～16：00
5. 場 所：慶應義塾大学三田キャンパス西校舎 2階 528教室
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

我が国は超少子高齢化社会を目前にしている。医療、福祉などの分野で2025年問題が取り上げられているが、これは団塊の世代が後期高齢者となる年度である。その年の65歳以上人口は30.3%にまで上昇し、一方年少人口はわずかに11%にまで低下すると推定されている。それでもなお、多くの人々が納得して暮らせる持続可能な社会を築くためには「健康寿命を延ばす」ことが必須である。厚生労働省によると2013年の男性の健康寿命は71.19歳（平均寿命80.21歳）、女性は74.21歳（平均寿命86.61歳）で、男女ともに平均寿命との差が大きい。

健康・生活科学委員会ではこのような観点から「これからのいのちと健康と生活をまもる」と題していくつかのシンポジウムを開催し、将来の提言作成に繋げる企画を計画した。第一回目は、「災害時に生き抜くための力を養う」というタイトルで行う。

『震災は忘れたところにやってくる』のではなく、今や、忘れる暇もなくやってくる、という時代であり、震災のみならず様々なリスクに満ちた社会となっている。このような災害の襲来やリスクとの遭遇に備えて、今こそ我々は、東日本大震災からの教訓を生かすことが求められる。各コミュニティでは保健や福祉などの強化を検討しているが、そこで第一に求められるのは、「個」の生き抜く力を増強して不時に備えるという考え方ではないだろうか。弱者への共助の姿勢を第一に貫きつつ、根本の処では、常日頃から「個」の生き抜くための力を養う社会基盤づくりや教育を遂行することである。

8. 次 第：

総合司会：太田喜久子（日本学術会議第二部会員、慶応大学看護医療学部教授）

13：00 開会の挨拶および趣旨

那須 民江（日本学術会議第二部会員、中部大学大学生命健康科学部教授）

座長 秋葉 澄伯（日本学術会議第二部会員、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授）
神谷 研二（日本学術会議第二部会員、広島大学副学長/福島県立医科大学副学長）

(1) 13:05 災害から学ぶ住まいとコミュニティの崩壊による健康と福祉—福島
の事例から
大平 哲也 (福島県立医科大学医学部教授)

(2) 13:30 高齢者、子供などの弱者をまもるために—災害弱者である子供の運
動介入の重要性
田畑 泉 (日本学術会議第二部会員、立命館大学スポーツ健康科学部教授)

(3) 13:55 高齢者、子供などの弱者をまもるために—災害弱者である高齢者の健
康リスクとその対策
安村 誠司 (日本学術会議連携会員、福島県立医科大学教授)

座長 片田範子 (日本学術会議第二部会員、兵庫県立大学副学長)
吉野 博 (日本学術会議第三部会員、東北大学総長特命教授)

(4) 14:20 いのちと健康と生活をまもる基盤づくり
山田 覚 (高知県立大学看護学部教授)

(5) 14:45 「いのちと健康と生活をまもる」教育
工藤由貴子 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学教育人間科学部教授)

(6) 15:10 総合討論

15:55 閉会の挨拶
小川 宜子 (日本学術会議第二部会員、中部大学応用生物学部教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者は、主催委員会委員)

公開シンポジウム「分散型再生可能エネルギーの可能性と現実」の開催について

1. 主催：総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会
2. 共催：公益社団法人日本工学アカデミー
3. 後援：国立研究開発法人産業技術総合研究所、一般財団法人電力中央研究所、一般社団法人日本エネルギー学会、一般社団法人エネルギー・資源学会、公益社団法人物理探査学会、日本地熱学会、日本ヒートアイランド学会（すべて予定）
4. 日時：平成 29 年 2 月 24 日（金）13:00-17:00
5. 場所：日本学術会議 講堂 外 1 室
6. 分科会の開催：開催なし

7. 開催趣旨：

我が国には、全電力需要だけでなくエネルギー消費量全体にも匹敵する量の再生可能エネルギーが存在するとの意見がある。石油、天然ガス、石炭といった化石燃料に大きく頼っている日本において、再生可能エネルギーの活用はエネルギーの多様化、安全保障、さらには分散型社会に繋がる。しかしその有効利用には、エネルギー変換技術やエネルギー収支比などによる評価といった技術、電力網などのインフラ、電力買取制度などの制度について、地域に密着したガバナンスが重要となる。

このシンポジウムでは、風力、太陽光、地熱、地中熱、バイオマス、小水力などの分散型再生可能エネルギー開発の成功例、失敗例を挙げ、メリット・デメリットを整理し、開発促進に繋がるガバナンスのあり方を考える。

8. 次第：

講演（13：00－15：30）

趣旨説明

佃 栄吉（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所理事）

「東日本大震災復興支援委員会の活動について」

太田 健一郎（横浜国立大学名誉教授）

「福島における再生可能エネルギー開発への取り組み」

大和田野 芳郎（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所所長）

「地域コミュニティにおける地中熱利用」

笹田 政克（特定非営利活動法人地中熱利用促進協会理事長）

「種子島におけるバイオマスエネルギー開発の取り組み」

福島 康裕（東北大学大学院工学研究科化学工学専攻准教授）

「山梨県における小水力発電モデル事業など」

坂本 正樹（山梨県企業局電気課主査）

「東近江におけるエネルギーパーク」

山口 美知子（東近江市市民環境部森と水政策課課長補佐）

休憩（15：30－15：45）

討論（15：45－17：00）

分散型再生可能エネルギーの開発促進を考える

司会：

大久保 泰邦（日本学術会議連携会員、一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構技術参与）

パネリスト：

太田 健一郎（横浜国立大学名誉教授）

大和田野 芳郎（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所所長）

北川 尚美（日本学術会議連携会員、東北大学大学院工学研究科化学工学専攻准教授）

笹田 政克（特定非営利活動法人地中熱利用促進協会理事長）

山地 憲治（日本学術会議連携会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構理事・研究所長）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「ピコテクノロジーが拓く世界
—新たなものづくり産業基盤の構築をめざして—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 機械工学委員会 生産科学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本機械学会、公益社団法人精密工学会、公益社団法人砥粒加工学会、一般社団法人情報処理学会、サービス学会
3. 日 時：平成29年2月3日（金）13：30～17：30
4. 場 所：日本学術会議 講堂 外5室
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

“ものづくり”は我が国の産業基盤であり、その将来ビジョンを明確にすることは重要である。日本学術会議・機械工学委員会生産科学分科会では、高付加価値製造技術（High Value Manufacturing）の創出など、学術的知見をグローバルな視点で深く総合するとともに、産業界からの要望も考慮して未来産業について議論してきた。その結果、新たなものづくり環境を実現するためには、ピコテクノロジー基盤を確立することが最重要であるという結論に達した。本シンポジウムでは、加工装置や分析評価装置の現状を俯瞰するとともに、ピコ精度ものづくりを実現するためにどうするべきか、さらには国際的優位性を確保していくためには今後どうあるべきかを産官学の立場から議論する。

7. 次 第：

- 司会：厨川 常元（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院医工学研究科教授）
新野 秀憲（日本学術会議連携会員、東京工業大学未来産業技術研究所教授）
- 13：30 挨拶
松本 洋一郎（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人理化学研究所理事）
- 13：40 「未定」
大森 整氏（国立研究開発法人理化学研究所主任研究員）
- 14：10 「未定」
講師依頼中（経済産業省製造産業局）
- 14：40 「未定」
板津 武志氏（(株)ナガセインテグレックス常務取締役）
- 15：10－15：20 （ 休憩 ）
- 15：20 「未定」
遠藤 勝義氏（大阪大学 超精密科学研究センター長・教授）
- 15：50 「未定」
宮下 勤氏（アメテック(株) テーラーホブソン事業部技術顧問）
- 16：20 「未定」
講師依頼中（三菱電機（株））
- 16：50 「未定」
講師依頼中（ニコン（株））

17：30 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「天文学・宇宙物理学のさらなる地平を探る」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会
2. 共 催： なし
3. 後 援： なし
4. 日 時：平成 29 年 3 月 11 日（土） 13：00 ～ 17：30
3 月 12 日（日） 9：30 ～ 16：30
5. 場 所： 東京大学本郷キャンパス理学部 4 号館 1220 教室
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：次世代を牽引する若手研究者を中心として、巨大化がすすむ天文学・宇宙物理学の最先端が今から数十年先に進むべき方向性を議論し、将来の、日本の研究のあり方を考える機会を提供する
8. 次 第：
 - 3 月 1 1 日（土）
 - 13:00-13:10 挨拶：観山正見（日本学術会議第三部会員、広島大学学長室特任教授）
 - セッション 1 天文学・宇宙物理学に未来はあるか
 - 13:10-13:35 「これ以上何を知りたいのか？」
須藤 靖（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科教授）
 - 13:35-14:00 「これ以上プロジェクトを巨大化してどうする？」
山田亨（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人宇宙科学研究所准教授）
 - 14:00-15:00 大学院生、ポスドク代表（未定）からの意見
 - セッション 2 天文学・宇宙物理学の若手研究者に未来はあるか
 - 15:20-16:30 キャリアパスの現状と展望
（国立研究機関、女性研究者、私立大学、地方大学、天文ベンチャー関係者（未定））
 - 16:30-17:30 全体討論
 - 3 月 1 2 日（日）
 - セッション 3 日本の大規模将来計画の策定方針はこれで良いのか
 - 9:30-9:50 学術会議のマスタープラン策定プロセスについて
相原博昭（日本学術会議第三部会員、東京大学副学長・大学院理学系研究科教授）
 - 9:50-10:10 重力波観測計画の例

- A. Flaminio(国立天文台特任教授) (予定)
- 10:10-10:30 米国の例
David Spergel (プリンストン大学主任研究員) (予定)
- 10:30-10:50 コメント
村山 斉 (日本学術会議連携会員・東京大学国際高等研究所数物連携宇宙研究機構機構長・特任教授)
- 10:50-11:30 討論
- セッション4 2050年代の新たな地平を探る
- 13:00-13:30 天文学と基礎物理学
小林 努 (立教大理学部准教授)
- 13:30-14:00 系外惑星から宇宙生物学へ
河原 創 (東京大学理学系研究科助教)
- 14:00-14:30 地上望遠鏡の展望
林 正彦 (日本学術会議連携会員、国立天文台台長)
- 14:30-15:00 スペースミッションの展望
常田 佐久 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構理事、宇宙科学研究所所長)
- セッション5 15:20-16:30 総合討論 天文学・宇宙物理学の未来

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者は主催分科会委員)

公開シンポジウム「第 30 回環境工学連合講演会」の開催について

1. 主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会学際連携分科会
2. 共催：公益社団法人空気調和・衛生工学会（※）、公益社団法人化学工学会、公益社団法人環境科学会、環境資源工学会、公益社団法人高分子学会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人地盤工学会、静電気学会、公益社団法人大気環境学会、公益社団法人土木学会、日本 LCA 学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本水道協会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本土壌肥料学会、公益社団法人日本分析化学会、公益社団法人日本水環境学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会（※印は幹事学会）
3. 後援：なし
4. 日時：平成 29 年 5 月 23 日（火） 9：15～17：10
5. 場所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

「気候変動における環境工学の貢献～緩和と適応」を統合テーマとして、官・学・民の研究者および技術者による学術成果、技術成果の発表、討議を通じ、バランスのとれた環境工学の発展を意図して行う。

昨年の COP21 ではパリ協定が採択され、先進国と発展途上国がそれぞれの利害の差を乗り越えて、地球温暖化防止への新しいアクションの道が開かれた。我が国では残念なことに国内の批准が遅れ、本年 11 月の COP22 での具体的な取り組みの協議に参画が出来なかった。しかしながら、我が国における地球温暖化防止への緩和策と適応策については、従来から極めて多様な取組みがなされている。そこで、特別講演では「地球温暖化の現状と見通し」と題して、地球社会の持続可能性を左右する課題を総合的に展望するとともに、各専門領域の個別の活動成果について、それぞれの観点から発言して、立場を超えた議論の深化を目指す。

8. 次第：

■開会（9:15～9:20）

◎開会挨拶：米田 雅子（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学先端研究センター特任教授）

■招待講演：

※統合テーマ「気候変動における環境工学の貢献～緩和と適応」に関連するテーマについて、共催各学協会からの推薦により、講演プログラムを決定する。

□【緩和策（9:20～10:40）】

A-01 招待講演：気候変動対策としての CCS とコミュニケーション（仮）（資源・素材学

会)

- A-02 招待講演：二酸化炭素回収処分は大規模石炭火力発電所で実施すべきなのか？（日本分析化学会）
- A-03 招待講演：次世代バイオ固形燃料：バイオコークスによるゼロ・エミッション循環型社会形成に向けて（日本機械学会）
- A-04 招待講演：日本鉄鋼業の地球温暖化対策への取組み（仮）（日本鉄鋼協会）

□【緩和策（10:50～12:10）】

- A-05 招待講演：プランテーションにおける加工工程への物質フロー適用と環境負荷低減（化学工学会）
- A-06 招待講演：廃棄物・副産物の有効利用による環境負荷低減と地盤環境工学の役割（仮）（地盤工学会）
- A-07 招待講演：省エネ型銅リサイクルプロセスの開発（環境資源工学会）
- A-08 招待講演：グリーンオイル一貫生産技術研究開発の進捗（静電気学会）

■【特別講演（13:00～13:30）】

- S-01 特別講演：地球温暖化の現状と見通し
木本 昌秀（東京大学大気海洋研究所副所長・教授）

□【適応策（13:40～14:40）】

- P-01 招待講演：将来気象データに基づく気候変動下の建築環境の評価（空気調和・衛生工学会）
- P-02 招待講演：PM2.5の大気環境問題（仮）（大気環境学会）
- P-04 招待講演：暑熱環境への適応に向けた取組み（日本建築学会）

□【適応策（14:50～15:50）】

- P-03 招待講演：2100年の水代謝システム（仮）（土木学会）
- P-05 招待講演：水道システムの気候変動への適応（仮）（日本水環境学会）
- P-06 招待講演：開放系大気CO₂増加（FACE）実験水田：高CO₂・気候変動への適応とメタン発生の緩和を両立する水稻栽培技術・品種開発のプラットフォーム（日本土壌肥料学会）

□【緩和策と適応策（16:00～17:00）】

- P-07 招待講演：地方自治体における気候変動緩和・適応策の現状と課題（仮）（環境科学学会）
- P-08 招待講演：気候変動の緩和策と適応策を対象としたライフサイクル評価（仮）（日本LCA学会）
- P-09 招待講演：廃棄物・リサイクル分野における緩和策と適応策（廃棄物資源循環学会）

■閉会（17:00～17:10）

◎第30回環境工学連合講演会の総括：

赤司 泰義（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授）

◎閉会挨拶：嘉門 雅史（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「情報学教育の展望」の開催について

1. 主催：日本学術会議情報学委員会、情報科学技術教育分科会、情報ネットワーク社会基盤分科会、九州・沖縄地区会議
2. 共催：国立大学法人九州工業大学
3. 後援：一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会九州支部（予定）、一般社団法人九州経済連合会（予定）
4. 日時：平成 29 年 3 月 27 日（月）13：30～17：00
5. 場所：九州工業大学情報工学部講義棟 2201 講義室
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

情報学の進展は目覚ましく、今日、その成果は広く、深く社会に浸透している。今後、新たな産業の創出および ICT 社会の進化を実現するためには、それを支え、推進する情報分野の人材をいかに育成するかは重要な課題である。本シンポジウムでは、情報分野の教育および高大接続（高校と大学での教育の接続）に関し、現状の共有と今後の在り方に関する議論を行う。

8. 次第：

13：30 開会挨拶

尾家 祐二（日本学術会議第三部会員、九州工業大学学長）

13：50 講演「情報学を定義する」

萩谷 昌己（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授）

15：00 パネル討論「ICT 社会を切り拓く人材育成」

コーディネーター：

平田 耕一（九州工業大学大学院情報工学研究院知能情報工学研究系知能数理学部門教授）

パネリスト：

萩谷 昌己（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授）

安田 孝美（名古屋大学大学院情報科学研究科副研究科長・教授）

下條 真司（日本学術会議連携会員、大阪大学サイバーメディアセンター教授）

榎本 剛（文部科学省研究振興局参事官（情報担当））

梶原 誠司（九州工業大学大学院情報工学研究院長）

17 : 00 閉会挨拶

梶原 誠司（九州工業大学大学院情報工学研究院長）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える」の開催について

1. 主催：日本学術会議 学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会

2. 後援：文部科学省、一般社団法人国立大学協会（予定）

3. 日時：平成29年3月1日（水）13：30～17：00

4. 場所：日本学術会議講堂

5. 委員会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

日本学術会議では、国立大学を取り巻く昨今の状況を受け、学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方について審議を重ねてきた。今般、提言の素案の作成を行ったことに鑑み、広く意見を聴取するため、シンポジウムを開催することとする。

7. 次第：

13:30 はじめに

福田 裕穂（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科長・教授）

13:35 講演（※一人20分程度）

「国立大学の今後について（仮）」

五神 真（日本学術会議第三部会員、東京大学総長）

「国立大学の教育・研究・人材育成のあり方（仮）」

福田 裕穂（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科長・教授）

「国立大の存在意義（仮）」

広田 照幸（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）

「国立大の財政基盤について（仮）」

金子 元久（日本学術会議第一部会員、筑波大学大学研究センター教授）

「国立大学の連携－情報基盤（仮）」

安浦 寛人（日本学術会議第三部会員、九州大学理事・副学長）

「今後の人文社会の在り方等について（仮）」

三成 美保（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学副学長・研究院生活環境科学系教授）

15:35-15:50 休憩

15:50 パネルディスカッション

司会：福田裕穂（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科長・教授）

パネラー：

広田 照幸（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）

金子 元久（日本学術会議第一部会員、筑波大学大学研究センター教授）

安浦 寛人（日本学術会議第三部会員、九州大学理事・副学長）

三成 美保（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学副学長・研究院生活環境科学系教授）

長野 哲雄（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授・創薬機構客員教授）

吉見 俊哉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環教授）

17:00 おわりに

三成 美保（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学副学長・研究院生活環境科学系教授）

（下線の講演者等は、主催委員会委員）